

令和紙



おりおりの記

## コロナと健保の現場から

東京証券業健康保険組合  
常務理事

武田 太老

当健保組合は70年余に亘り診療所を運営してきており、少し古くは、平成7年の地下鉄サリン事件の救護、同15年のSARS、同24年のMERSといった感染症対応など、幾多の事件、出来事に関わってきたが、新型コロナウイルスは世界に未曾有の混乱と危機をもたらした。人類は一丸となってこの目に見えない難敵に対し逃げることなく真正面から取り組んできた。

当健保においても、感染の初期段階から可能な限りの感染防止対策を講じながら、保険給付、健康診査などの健保業務を継続するとともに、医療提供体制を確保すべく診療所を運営する一方、熱海保養所はじめ4つの保養施設は感染防止の観点から臨時休業と再開の繰返しを余儀なくされ、秋谷保養所は共同使用設備が多く感染リスクを払拭することができないことから60年の歴史に幕を下ろした。

コロナ前と比較すると、医療費は微減、診療所の患者さんは3割減、保養所のご利用は8割減となったが、加入事業所、加入者の皆様のご理解、ご支援をいただきながら今日に至るまで大過なく業務を継続している。引き続き緊張感をもって業務に取り組んでまいりたい。

また、感染対策の切り札となるワクチン接種については、日本取引所グループから東証ホールを接種会場として無償提供いただき、全国400加入事業所の従業員の皆様を対象に7月1日から9月22日まで職域接種を実施した。突然のワクチン供

給停止により、現場は当初から混乱が続いたが、接種時に回収した接種券の発行自治体は全国約250市区町村と広域に亘り、医療事故やアナフィラキシー等の発生もなく約6,000名の方々に接種いただき無事終了することができた。これもひとえに日頃からの業界のご支援とご協力のお陰である。心より感謝申し上げます。微力ながらも業界の皆様のお役に立てたのであれば、職員一同、今後の励みとさせていただきます。



一言申し添えると、会場の広さと実施期間から算定した接種可能人数等の制約があり、接種を希望される方々全員に接種できなかったこと、そして、会場が東京のため関東以外の事業所が一定数ご辞退されたことに対し、力不足をお詫び申し上げます。

最後に、ワクチンの国内生産が一日も早く実現し、他に頼ることなく健保独自で計画性をもってワクチンを調達し職域接種が行える環境が整備されることを期待している。